大切な遺跡を未来に残す

取掛西貝塚の調査は、平成 11（1999）年に行われた 1 回目の調査から始まります。平成 20（2008）年の 5 回目の調査では、約 1 万年前の縄文時代早期の住居や貝塚、そして動物骨集中がみつかりました。

平成 28（2016）年から令和元（2019）年には、地元の方々にもご協力いただき、遺跡の内容をさらに詳しく知るための発掘調査などを行い、様々な分析や研究を進めました。その結果、日本全国にたくさんある遺跡のなかでも、特に重要な価値のある遺跡であることがわかり、令和 3（2021）年に船橋市初の国史跡（くにしせき）に指定されました。現在、船橋市では、遺跡の保存と活用に向けて取り組んでいるところです。

土器や石器は見つかるかな？発掘体験中！

調査・研究の成果を報告書・パンフレットにまとめています

もっと知りたい！ 取掛西貝塚

現在の取掛西貝塚の大部分は、発掘調査後に埋め戻され、畑として耕作されているため、遺跡を見ることはできません。

船橋市の縄文時代を専門とした博物館である飛ノ台（とびのだい）史跡公園博物館では、取掛西貝塚の貝層の剥（は）ぎ取りなどを展示しています。是非、訪れてみてください。

屋外の遺跡展示と博物館で縄文時代を体感！

貝塚から見つかるのは貝だけではない？何があるかな？

飛ノ台史跡公園博物館
〒 273-0021　船橋市海神 4-27-2　電話：047-495-1325

「ふなばしの遺跡」好評発売中！！

船橋市内の遺跡を豊富な写真でわかりやすく紹介した本です。取掛西貝塚もさらに詳しく解説しています。

A4 カラー 44 頁／ 300 円

飛ノ台史跡公園博物館、郷土資料館、市内図書館、文化課で販売しています。

HP・Facebook でも情報発信中！

取掛西貝塚に関する活動や遺跡見学会・講演会などの情報は、文化課のホームページやフェイスブックでお知らせしています。

船橋市文化課

発行　船橋市教育委員会文化課
令和 5(2023) 年 6 月 5 日発行（第 3 版）
船橋市湊町 2-10-25　電話：047-436-2887

千葉県 船橋市 国史跡

取掛西貝塚（とりかけにしかいづか）

ってどんな遺跡？？

取掛西貝塚の約 1 万年前の土器

台地上に遺跡が広がっています

畑の下から土器が続々と…

ツノガイでつくった小さなビーズ

たくさんの方に参加いただいた遺跡見学会

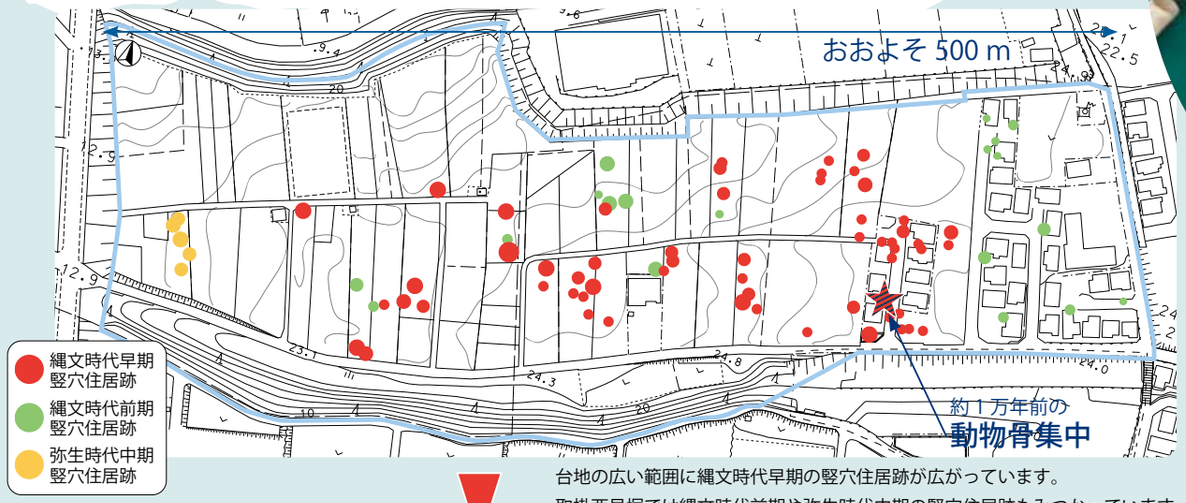
船橋の畑の下に 1 万年前の縄文ワールド

「遺跡」と聞くと、 どこか遠くにあるもの…そんな風に考える方もいるかもしれませんが、取掛西貝塚は、飯山満町（はさまちょう）と米ケ崎町（こめがさきちょう）にまたがる台地上の畑のわずか 30㎝下のところに長いあいだ眠っていたのです。

約 76,000 ㎡という広大な遺跡を探る調査が進み、全国的にも貴重な約 1 万年前の縄文時代早期（じょうもんじだいそうき）の遺跡であることがわかり、当時の人々の生活の痕跡（こんせき）が明らかになってきました。この時代の人々の生活はどのような様子だったのでしょうか？縄文時代の世界をのぞいてみましょう！

1万年前の関東最大級のムラ

取掛西貝塚では、約１万年前の縄文時代早期の竪穴住居跡がこれまでに 58 軒みつかり、東西約 500 mの範囲に広がる大集落であったことがわかりました。この集落の大きさは、この時期としては関東最大級です。



台地の広い範囲に縄文時代早期の竪穴住居跡が広がっています。
取掛西貝塚では縄文時代前期や弥生時代中期の竪穴住居跡もみつかっています。

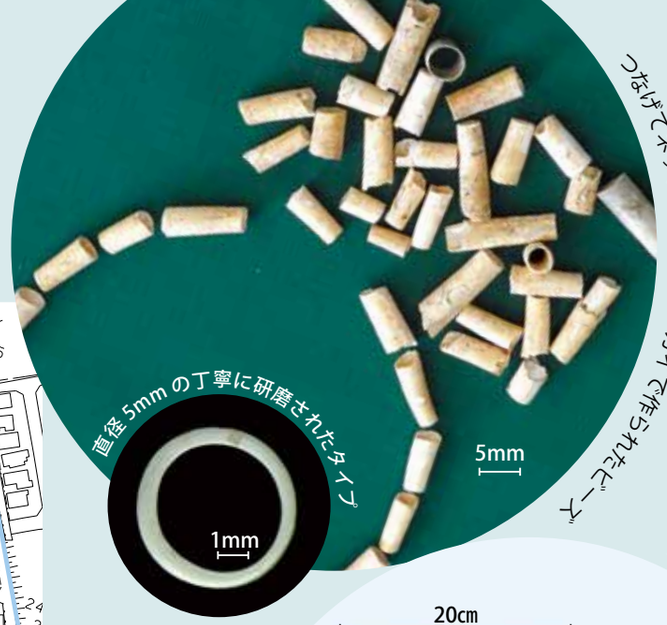
貝塚すごいぜ！

取掛西貝塚からは、使われなくなった住居に貝殻などが捨てられてできた貝塚が見つかっています。約１万年前の気候は最終氷期が終わり、気温が上昇しはじめていましたが、東京湾の海面は今より約 40 mも低く、海岸は今より遠くにありました。取掛西貝塚の貝は 99%が河口に生息するヤマトシジミで、今の地形から想像するよりも遠くから運ばれたようです。貝塚は縄文人たちが食べ終わった貝殻・骨などを捨てた跡で、通常、土の中では腐ってなくなってしまうものが貝殻のカルシウムに保護されて残っているタイムカプセルなのです。また、貝塚の下からはイノシシやシカの頭の骨を並べた跡が見つかりました。動物儀礼跡だとすれば日本最古のものです！

白く見えるのは
ヤマトシジミの
貝殻です

平成 20（2008）年の５回目の調査で見つかった１万年前のヤマトシジミの貝層と動物骨集中

貝層の下からは並べられた動物（イノシシ・シカ）の頭骨が出土しました



つなげてネックレスに？ ツノガイでできたビーズ

直径 5mm の丁寧に研磨されたタイプ

縄文人の暮らし

取掛西貝塚に住んでいた縄文人たちはどんな暮らしをしていたのでしょう。当時の人々がくらしの中で使っていた道具はもちろんのこと、身に着けていた装飾品も出土しました。

装飾品は、ツノガイで作られたビーズがこれまでに 2000 点以上出土しています。今よりもずっと厳しい暮らしをしていたと考えられる縄文人たちには、装飾品は生活する上で意味のない物にみえますが、身の回りを飾ることはなんらかの大切な意味があったのかもしれません。

土器は、縄文時代に初めて作られた道具で、現在の鍋のように主に煮炊きに使われていました。大量に出土したシジミは煮込んでスープにしていたのでしょうか。取掛西貝塚の土器は関東各地の特徴を持ったものがあります。どうやらよそから運ばれてきた土器もあるようです。取掛西貝塚は、各地の人々が交流した場所だったのかもしれませんね。

動物の骨や角で作られた道具は、精巧に加工されたものが出土しました。なかでも針は現在と同じ形をしています。皮などを縫っていたと考えられます。

取掛西貝塚から出土した１万年前の縄文土器はシンプルな形

動物の骨または角で作られた１万年前の針。どんなものを縫っていたのでしょう？